

教師ノート

| | |
|---|---|
| 週課 | 第二年 第七課 第四週 |
| 単元 | モーセ・2 |
| テーマ | 神さまを信じとおす信仰 |
| タイトル | 12人の斥候 |
| テキスト | 民数記13:1-14:34 |
| 参照箇所 | 申命記1:19-2:1 |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) | イザヤ41:10 |
| AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます) | 小下 3 巻 1 題 12 課 |
| □導入 | |
| | シナイを出たイスラエルの民は、荒野の旅を続けていました。そしていよいよ、約束の地カナンまでもうあと少しというところまでやって来ました。 |
| | ☞ 斥候＝敵状・地形等の状況を偵察・搜索させるため、部隊から派遣する少数の兵士(広辞苑) |
| □ポイント1 12人の斥候が、カナンの地について調べ、報告しました(13章) | |
| | 神さまがモーセにおっしゃいました。「12部族ごとにひとりずつ、斥候(敵の様子を探る人)を出して、カナンの地を調べさせなさい。」モーセは、神さまの言うとおりにしました。12人を集めて命じました。「カナンの様子を詳しく調べて報告しなさい。そこに住んでいる人々が強いかわい弱いかわ、人数はどれくらいか。また作物が育つのに良い土地か悪い土地か。町は宿営か城壁か。そして、その地のくだものを取って来なさい。」 |
| | 12人の斥候は、40日間かけて、カナンを偵察し、戻ってきました。ぶどうが1房ついた枝を2人が棒でかついで持ち帰りました。ざくろやいちじくもとりました。そして調べたことを、モーセとみんなに報告しました。まず、果物を見せて、「カナンは作物が豊かに育つ良い土地です。神さまが乳と蜜が流れる土地とおっしゃったのは本当です。」と言いました。巨大な果物を見て、話を聞いた民はうれしくなったことでしょう。斥候たちは、続けて報告しました。「しかし、その地に住む民は力強く、町々は城壁を持ち、体もとても大きくて、特に大きいアナク人までいました。アマレク人・ヘテ人・エブス人・エモリ人・カナン人が各地に住んでいます。」それを聞いて今度は逆に、人々は不安に陥りました。カナンの地に入っていくても、強い民族にコテンパンに打ちのめされてしまうと思ったからです。 |
| | そのとき、斥候のひとりで、ユダ族の長カレブが言いました。「みなさん、落ち着きましょう。確かに、相手は強そうですが、必ず勝てます。勇気を出して攻めて行きましょう。」しかし、ほとんどの斥候は反対の意見を言いました。「無理に決まっているよ。あの強い民にはかないっこない。あの人の手にかかれれば、私たちはまるでイナゴを殺すように、簡単にやられてしまうだろう。」 |
| □ポイント2 イスラエルの民は神さまの約束を信じるできませんでした(14:1-12) | |
| | イスラエルの人はみな、がっかりして、怖くて、ひと晩中大声で泣き叫びました。そしてモーセとアロンに対して文句を言い始めました。「なんで苦勞してこんな所につれて来たんだよ。戦いで殺されるくらいなら、エジプトにいた方がましだったのに。」「そうだ、新しいリーダーをたてて、エジプトに帰ろう。」 |
| | しかし、斥候のうち、ヨシュアとカレブだけは、神さまを信じ続けました。彼らは、人々に向かって言いました。「もし、私たちが御心にかなうなら、神さまが私たちをあの地に導き入れてくださるはずですよ。だから、ただ神さまを信じよう。神さまが私たちとともにいてくださるのですから、彼らを恐れる必要はありません。」ヨシュアとカレブは、今までに神さまがくださった恵みを、しっかりとおぼえていたのでしょう。そして、今度も必ず神さまが守ってくださると信じていたのです。しかし、人々は全くそのような信仰 |

をもつことができませんでした。それどころか、「家族が皆殺しになってもいいのか！」と、ヨシュアとカレブを、石で打ち殺そうとしました。

そのとき、神さまがモーセにおっしゃいました。「民はいつまで私を侮る(信頼しない・バカにする)のか。私は、民のために、たくさんの奇跡を見せたではないか。それなのに、まだ私を信じないのか。」カナンの人々を見て恐れ、文句ばかり言っているということは、神さまの力ではイスラエルの民を守ることができないと、神さまをバカにしているようなものです。それで神さまは怒っていらっしゃるのです。神さまは「疫病でイスラエル人を滅す」とおっしゃいました。不信仰な民に、とうとう罰が宣告されたのです。

□ポイント3 神さまは、民が荒野を40年の間さまようようにされました(14:13-34)

モーセは、民のためにとりなして、神さまにお願いしました。「神さま、あなたは、この民を祝福すると約束してくださったではありませんか。エジプトから今までも私たちを赦してくださったように、どうかこの民の罪を赦してください。あなたの大きな恵みを注いでください。」一生懸命お願いするモーセに応えて、神さまはイスラエルの民を滅ぼすことは、思いとどまってくさいました。

ただし、神さまの愛と力を侮った民の罪をただ見過ごすことはされませんでした。神さまを信じず、モーセに文句を言った人たちは、約束の地に入ることが許されなくなりました。エジプトから何度も神さまに守られ、奇跡を見ていながら、神さまを信頼せず、従わない罪は大きかったのです。主はあわれみ深く、恵み豊かなお方であると同時に、正しく罪を裁かれるお方です。

イスラエル人は、神さまに背き・反抗した報いとして、なんと40年も荒野をさまよい続けることとされました。彼らのうち20歳以上の人は、みなカナンに入る前に荒野で死ぬのです。ただし、神さまを信じとおしたカレブとヨシュアは、生きてカナンに入ることが許されました。

□結論 神さまが私たちとともにおられるので、恐れることはありません 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)どんな状況にあっても、神さまを信じましょう。みなさんは、ヨシュアやカレブのように、たとえ悪い状況であっても、神さまを信じることができますか？それとも他の斥候やイスラエル人のように、状況が悪いと、恐れたり・文句を言ったり、あきらめたりしてしまいますか？スポーツでも勉強でも遊びでも、初めてチャレンジするときや、強い相手と戦うときは、不安になりますね。お友だちを教会にさそうとき・病気のとき・ピンチのとき・緊張するとき・運動会・テスト・発表会など、「どう考えても無理だ」と思うときこそ、信仰を持ちましょう。みこころならば、神さまが助けてくださいます。目に見える状況にまどわされず、神さまを信じよう。自分の力ががんばろうとするより、神さまの力に頼る方が、神さまに喜ばれます。自分たちの考えではどうしようもないときこそ、神さまに頼りましょう。

例2)神さまがともにいてくださるので、恐れなくて歩もう。みなさんは、まだ起こる前からいろんなことを心配していませんか？人に笑われたらどうしよう、失敗したらどうしよう・・・など不安になってしまいますね。いつも、神さまがともにいてくださいますから、恐れることはありません。イスラエルの民は、神さまが彼らをカナンに導くと約束してくださったのに、強そうな相手を見て、すっかり不安になってしまいました。ひとりぼっちのときでも、どんな困難や敵の前でも、恐れることはありません。人を恐れてビクビクする必要はありません。神さまの前に真実で、神さまを信じ続ける限り、絶対に神さまが守って、勝利を与えてくださいます。神さまは何でもできるし、一番強い、そしてあなたを最高に愛してくださるやさしいお方です。だから、神さま以外、何も恐れる必要がありません。不安で胸がいっぱいになったとき、みことばを思い出して、恐れるな！と勇気を出しましょう。